構造関係共通事項（共通事項）

1．総則

1．1　適用範囲
（1）構造関係共通事項（配筋標準図）は，鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における組立等の一般的な標準図とする。
（2）構造関係共通事項（鉄骨標準図）は，鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造における鉄骨の加工，組立等の一般的な標準図とする。
（3）建築構造[illegible]ない事項は，公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和7年版（以下「標準仕様書」という）による。

1．2　用語の定義
（1）建築構造図とは，[illegible]図面のうち構造に関する図面をいう。
（2）構造図とは，建築構[illegible]造関係共通事項（共通事項、配筋標[illegible]準）以外の図面をいう。

1．3　優先順位
建築構造図に相違がある場合の[illegible]下のとおりとする。
1．構造図
[illegible]構造関係共通事項（共通事項）
[illegible]構造関係共通事項（配筋標準図、鉄骨標[illegible]
[illegible]標準仕様書

[illegible]記号等
[illegible]建築構造図で使用する記号は，表1～表8，図1を標準とする。
（2）異形鉄筋の径（本文，図，表において「D，d」で示す）は，呼び名に用いた数値とする。
（3）長さ，厚さ等の単位は，特記がなければmmとする。

表1　鉄筋の断面表示

区分＼径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	[illegible]32
建　築	●	×	∅	●	○	⊙	[illegible]

表2　各階伏図における記号

説　明	記　号	説　明
スラブの配筋種別		杭の位置
スラブ厚さ		[illegible]鉄杭の位置
階段の配筋[illegible]		[illegible]の範囲
土間コン[illegible]		[illegible]開口
コンクリートブ[illegible]壁）		[illegible]ング位置
梁・スラブの上がり下が[illegible]		[illegible]からの上がり下がり
耐力壁の種別 片持スラブ形階段を受け，かつ[illegible]力壁の種別 [illegible]圧を受け，かつ耐力壁の種別		一般壁の種別 片持スラブ形階段を受ける一般壁の種別

表3　梁貫通孔記号

区分	[illegible]	100	125	150	175	200	225	[illegible]	[illegible]00	325	350	375	400
建	[illegible]												

[illegible]4　スリーブ材質の凡例

[illegible]名	[illegible]	[illegible]っき鋼板	硬質塩化ビニル管（薄肉管）	つば付き鋼管（黒管）
記[illegible]	[illegible]		VU	RS

[illegible]使用区[illegible]工事によ[illegible]

表[illegible]記号

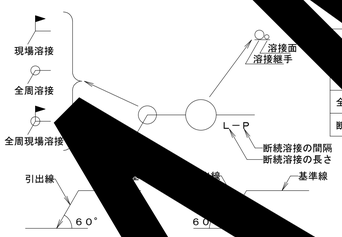
図[illegible]	[illegible]	[illegible]0	M22	M24
(F[illegible]	●		●	●
溶融亜鉛め[illegible]（F8T相[illegible]				

表6　普通ボルト径の記[illegible]

区分＼径	M12	M16	M20	M22	[illegible]
普通ボルト	○	⦶	⊕	⊛	[illegible]

[illegible]溶接方法，溶接継手及び溶接面の分[illegible]

			記号
溶　接　継　手	完全溶込み溶接	突[illegible]	B
		T型[illegible]	T
		かど継[illegible]	C
	隅肉溶接		[illegible]
	部分溶込み溶[illegible]		[illegible]
	重ねア[illegible]		[illegible]
溶　接　面	片面溶接		1
	両面溶接		2



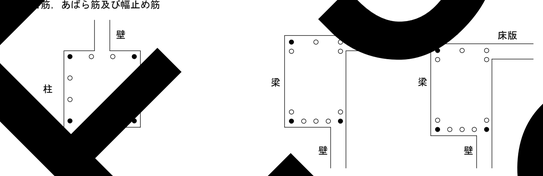
[illegible]の補助[illegible]

[illegible]助記号	
場[illegible]	
溶[illegible]	
全[illegible]溶　接	
断面溶接[illegible]間隔	L－[illegible]

※特記無き限り，完全溶込溶[illegible]法・溶接面は[illegible]る。
図1　溶接[illegible]例

標準仕様書　5章　鉄[illegible]事　3節　加工及び組立より

5．3．2　加工
（2）次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にフック[illegible]
（ア）柱の四隅にある主筋の重ね継手
（イ）最上[illegible]柱の四隅にある主筋の柱頭の定着
（ウ）梁[illegible]下端の両隅にある梁主筋の重ね継手（基礎梁を除く。）
（エ）[illegible]筋（壁の一部となる場合を含む。）
[illegible]のベース筋
[illegible]筋，あばら筋及び幅止め筋



[illegible]5.3.2(2)の解説）　末端部[illegible]必要とする出隅部の鉄筋（●印）

（3）鉄筋の折曲げ形状[illegible]表5.3.1による[illegible]
なお，異形鉄筋の径[illegible]て「d」で示す。）は，呼び名に用いた数値とする。

[illegible]折曲げ形状及び寸法

折曲げ角度	折曲げ図	鉄筋の種類	[illegible]法直径(D)		
			[illegible]345		SD390
		呼び名	[illegible]	D19～D38	D19～D38
180°	d, D, 4d以上		3d以上	4[illegible]	5d以上
135°	d, D, 6d以上				
90°	d, D, 8d以上				
135°及び90°（幅止め筋）	d, d, D, 4d以上				

（注）1．片持スラブ先端，壁[illegible]の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合には，余長を4d以上とする。
2．90°未満の折曲げの内法直径[illegible]る。

[illegible]継手及び定着
[illegible]の継手は，重ね継手，ガス圧接継手，[illegible]は溶接継手[illegible]は特記による。
[illegible]して，D35以上の異形鉄筋については，[illegible]いない[illegible]
（2）[illegible]手位置は，特記による。
（3）[illegible]ね継手は，次による。
[illegible]が異なる鉄筋の重ね継手の長さは，細い鉄筋の[illegible]記による。特記がなければ，耐力壁の鉄筋の重ね継手の
（ア）[illegible]次の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは，[illegible]40d（軽量コンクリートの場合は50d）又は表5.3.2の重ね継手の長さのうちいずれか大きい値とする。
[illegible]以外の鉄筋の重ね継手の長さは，表5.3.2による。

表5.3.2 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度（Fc）(N/mm²)	L1（フックなし）	L1h（フックあり）
SD295	18	45d	[illegible]
	21	40d	[illegible]
	24，27	35d	25d
	30，33，36	35d	25d
SD345	18	[illegible]d	35d
	21	[illegible]	30d
	24	40[illegible]	30d
	3[illegible]	[illegible]	25d
SD390	[illegible]	50d	35d
	[illegible]	45d	35d
	30，33	40d	30d

（注）1．L1，L1h：重ね継手の長さ[illegible]の重ね[illegible]
2．L1hは，図5.3.1に示すように[illegible]
3．軽量コンクリートの場合は，表の値[illegible]のとする。

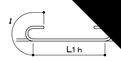
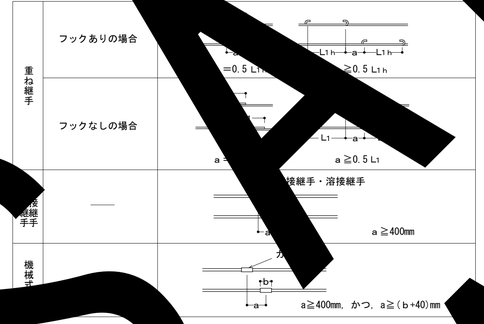


図5.3.1 フックありの重ね継手の長さ

[illegible]り合う継手の位置は，表5.3.3による。ただし，スラブ筋でD16以下の場合及び壁筋の場[illegible]
なお，先組み工法等で，柱及び[illegible]主筋のうち，隣り合う継手を同一箇所に設ける場合は，特[illegible]

[illegible]り合う継手の位置



（5）鉄筋の定着は，次による。
（ア）鉄筋の定着の長さは，特記による[illegible]がなければ，表5.3.4による。

[illegible]5.3.4 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリート[illegible]	直線定着の長さ L1	直線定着の長さ L2	直線定着の長さ L3 小梁	直線定着の長さ L3 スラブ	フックあり定着の長さ L1h	フックあり定着の長さ L2h	フックあり定着の長さ L3h 小梁	フックあり定着の長さ L3h スラブ
SD295	18	45d	40d	[illegible]	[illegible]	35d	30d	10d	—
	21	40d	35d	[illegible]	[illegible]	30d	25d	[illegible]	[illegible]
	24，27	35d	30d	[illegible]	[illegible]	[illegible]	20d	[illegible]	[illegible]
	30，33，36	35d	30d	[illegible]150mm以上	[illegible]	[illegible]	20d	[illegible]	[illegible]
SD345	18	50d	40d	[illegible]梁	（片持スラブの場合は25d）	35d	30d	[illegible]	[illegible]
	21	45d	35d	[illegible]	[illegible]	30d	25d	[illegible]	[illegible]
	24，27	40d	35d	[illegible]	[illegible]	30d	25d	[illegible]	[illegible]
	30，33，36	35d	30d	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
SD390	21	50d	40d	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
	24，27	45d	40d	[illegible]	[illegible]	35d	30d	[illegible]	[illegible]
	[illegible]36	40d	35d	[illegible]	[illegible]	30d	25d	[illegible]	[illegible]

（注）1．L[illegible]から4.まで以外の直線定着の長さ及びフックありの定着の長さ
2．[illegible]：割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあ[illegible]の定着の長さ
[illegible]小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし，基礎耐圧ス[illegible]れを受ける[illegible]
L3h：小梁の下端筋のフックありの定着の長さ
フックありの定着の場合は，図5.3.2に示すようにフック部ℓ を含まない。[illegible]曲げは行わない。
3．軽量コンクリートの場合は，表[illegible]5 d を加えたものとする。

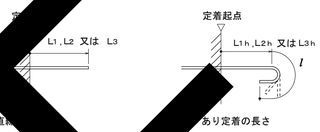
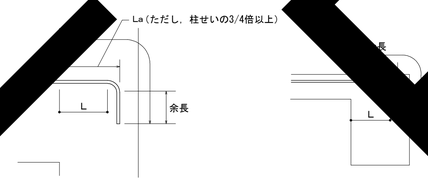


図5.3.[illegible]長[illegible]フックありの定着の長さ

（イ）仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋[illegible]は，表5.3.4のフックありの定着の[illegible]確保できない場合の折曲げ定着の方法は，特記による。特記がなければ，表5.3.3により，次の(a)から(c)まで[illegible]定するものとする。
（a）全長は，表5.3.4の直線定着の長さ以上とする。
（b）余長は8d以上とする。
（c）仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さLa及びLbは，表5.3.5に示す長[illegible]ただし，梁主筋の柱内定着においては，柱せいの3/4倍以上とする。



梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ　　小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影[illegible]

図5.3.3 折曲げ定着の方法

表5.3.5 投[illegible]

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度（Fc）(N/mm²)	[illegible]	[illegible]
SD295	18	20d	[illegible]
	[illegible]	15d	15d
	[illegible]	15d	[illegible]5d
	[illegible]	15d	[illegible]
	[illegible]	20d	[illegible]
[illegible]5	[illegible]	20d	20[illegible]
	24，[illegible]	20d	15d
	30，33，[illegible]	[illegible]5d	15d
	21	[illegible]	20d
[illegible]	[illegible]	[illegible]	20d
	30，[illegible]	20d	15d

（注）1．La：梁主[illegible]曲げ定着[illegible]基礎梁，片持[illegible]持スラブを含む。）
2．Lb：小梁及び[illegible]上端筋の梁影定着長さ[illegible]持小梁及び片持スラブを除く。）
3．軽量コンクリー[illegible]表の値に[illegible]のとする。

（6）溶接金網及びスパイラル筋の継手及び定[illegible]による。
（ア）溶接金網の継手及び定着は，図5.3.4に[illegible]
なお，L1は表5.3.2に，L2及びL3は表[illegible]

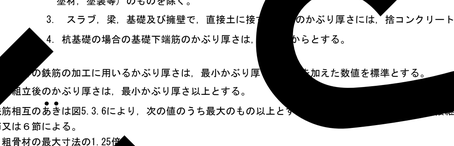


図5.3.4 溶接金網の継手及び定着

[illegible]ラル筋の継手及び定着は，図5.3.5による。

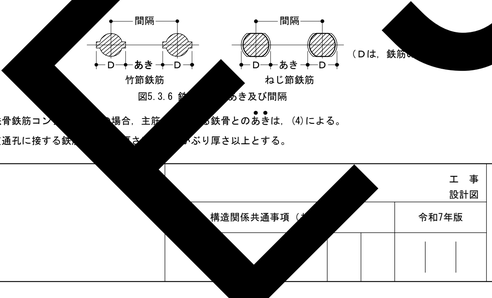


図5.3.5 スパイラル筋[illegible]定着

[illegible]5　鉄筋[illegible]厚さ及び間隔
（1）鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは，特記による。特記がなければ[illegible]による。ただし，柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は，主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するよう[illegible]り厚さを定める。

表5.3.6 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり[illegible]

[illegible]部分の種別			最小かぶり厚さ(mm)
土に接しない部分	耐力壁以外[illegible]	仕上げあり	20
		仕上げなし	30
	柱，梁，耐力壁	仕上げあり	30
		仕上げなし	30
		仕上げあり	30
		仕上げなし	40
	擁壁，耐力スラ[illegible]		40
土に接する部[illegible]	柱，梁，スラ[illegible]		40
	[illegible]ラブ		60
煙突等高[illegible]			60

（注）1．この表は，普通コンクリートに適用し，軽量コンクリートには適用しない。また，塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。
2．「仕上げあり」とは，モルタル塗り等の仕上げの[illegible]上有効でない仕上げ（仕上塗材，塗装等）のものを除く。
3．スラブ，梁，基礎及び擁壁で，直接土に接[illegible]のかぶり厚さには，捨コンクリートの厚さを含まない。
4．杭基礎の場合の基礎下端筋のかぶり厚さは，[illegible]からとする。

（2）[illegible]の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは，最小かぶり厚[illegible]加えた数値を標準とする。
[illegible]組立後のかぶり厚さは，最小かぶり厚さ以上とする。
[illegible]鉄筋相互のあきは図5.3.6により，次の値のうち最大のもの以上と[illegible]継手の場[illegible]
5節又は6節による。
（ア）粗骨材の最大寸法の1.25倍
（イ）25mm
（ウ）隣り合う鉄筋の径[illegible]（5.3.2(3)によるd）の平均の1.5倍

（Dは，鉄筋[illegible]

図5.3.6 [illegible]あき及び間隔

（5）鉄骨鉄筋コン[illegible]場合，主筋[illegible]鉄骨とのあきは，(4)による。
（6）貫通孔に接する鉄[illegible]さ[illegible]ぶり厚さ以上とする。

工　事 設計図			
構造関係共通事項（[illegible]		令和7年版	

SAMPLE